

家庭裁判所調査官になったら どんな研修があるの？

家庭裁判所調査官は、その職責を果たすために、行動科学の専門的知見を活用しています。

行動科学分野の研究は日進月歩であり、家庭事件の質も社会経済の状況を反映して

刻々と変化するため、常に最新の知見を身に付けておく必要があります。

個々の家庭裁判所調査官の専門性を高めるための環境が裁判所には用意されています。

専門性を高めるための環境

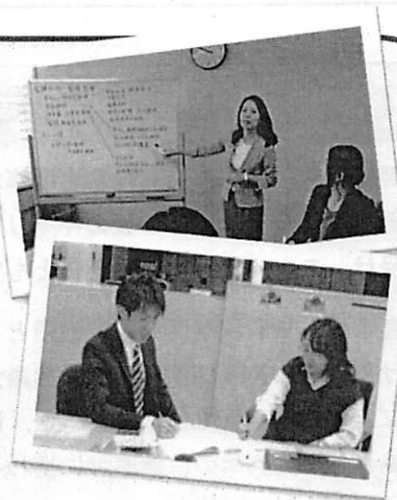


職場研修 (OJT)

主任家庭裁判所調査官と複数の家庭裁判所調査官が所属するチームにおいて、担当する事件の調査計画、調査の方法や内容、調査した結果をどう分析・評価して報告書を作成するかについて、検討します。

徹底した議論によってチームで切磋琢磨し、調査の質、個々の専門性の向上を図ります。

この他にも、日常的に上司から指導・助言を受けられ、同僚らと相談しあえる職場環境が整っています。



← 裁判所ウェブサイトはこちら

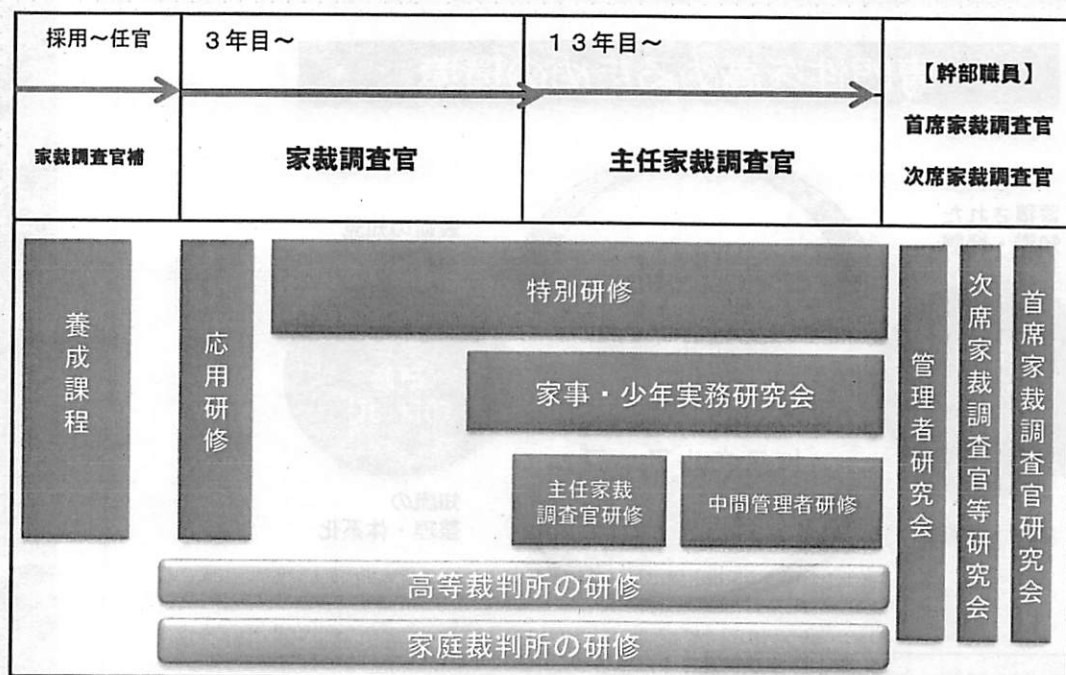
集合研修 (Off JT)



家庭裁判所調査官に求められる知識や技能を修得するためのカリキュラムが組まれており、下図のとおり、様々な研修が用意されています。

埼玉県和光市にある裁判所職員総合研修所のほか、高等裁判所や家庭裁判所においても研修が実施されており、スキルアップを図る機会は十分に確保されています。

研修では、経験豊富な職員や第一線で活躍している大学教授等による講義や、教材事例を用いた班別討議、ロールプレイなどが行われます。また、管理職の研修では、組織運営やマネジメントの在り方等の研究も行われます。



※ここに挙げたものは一例であり、このほかにも職務に必要な研修等を行っています。

キャリアに応じたスキルアップ

上図のとおり経験年数や役職に応じた集合研修が用意されているほか、総合職として採用される家庭裁判所調査官は、その後のキャリア形成に資する役割が与えられ、その過程でOJTを受け、スキルアップを図ることもできます。

家庭裁判所調査官は、家庭裁判所の基幹職種として、国民にとって利用しやすい裁判手続の実現に向けた事務改善、関係機関との協議会や調停委員等の各種研修などの企画・実施に携わることが期待されています。また、最高裁判所、高等裁判所、家庭裁判所等の事務局に配属され、裁判所の組織運営に携わることもあります。

裁判所を取り巻く社会の状況を見据えつつ、高い専門性はもとより、組織運営等の能力を併せて身に付けることで、個々の家庭裁判所調査官が成長し、適正迅速な裁判の実現に向け、家庭裁判所調査官全体が高いレベルで実力を発揮することができます。